

大願寺：歴史と仏像

大願寺が創建された時期は正確に分かっていませんが、1201～1203 年の間に、隣の厳島神社で保守管理を担当していた地元の真言仏教の僧・了海によって再興されたと考えられています。神聖な宮島にある大願寺の場所と、国中から多くの巡礼者が訪れる厳島神社との関係性が、この寺を全国的に有名にしました。

大願寺は、政府により神道と仏教が正式に分離された明治時代（1868～1912 年）までずっと、厳島神社に対し責任を負っていました。それまで厳島神社に収められてきた仏像や仏画の大部分が、大願寺に運び込まれました。大願寺はそのように名声が高かったことから、近くの神社や寺も保管のため神聖な像をこの寺に運び入れました。

残念なことに、神道と仏教の伝統を分離する過程で大願寺の境内は大幅に縮小され、建物の多くが失われました。このことにより、寺は保管する像や神聖な物品が増えたにもかかわらず、それらを展示するスペースは大幅に減るという、難しい立場に立たされました。本堂には、もともと安置されていたお堂や宮島の他の寺から救い出された 20 体の仏像や、さらに多くの遺物を含む、寺の多岐にわたる収蔵品の大部分が安置されています。

大願寺の本尊は、日本神話の七福神の 1 つで、音楽・知恵・富の守護者である弁財天です。この寺の弁財天像は、日本で最も有名な 3 つの弁財天像の 1 つと見なされています。しかしながら、この像は一般の人々の目からは隠されており、毎年 6 月 17 日に開かれるお祭りの間のみ公開されます。本堂には、重要文化財に指定されている薬と治療の仏・薬師の像が常設展示されています。この像の歴史は平安時代（794～1185 年）まで遡り、真言仏教の創始者・空海（774～835 年）が彫ったものと言われています。歴史上のお釈迦様を表す釈迦牟尼、知恵の仏、および慈悲の仏を表現している 3 つの像は、島の 5 重の仏塔からこの寺に移されたものです。